

## 話 題

### 「日本水産学会誌」の記事が読める3つの電子ジャーナルについて

企画広報委員会前委員長  
東海 正（東京海洋大学）

本会の和文誌である日本水産学会誌（日水誌）の記事は、3つの電子ジャーナルサイト（J-STAGE, CiNii と AGROPEDIA）で読むことができる。いずれも PDF ファイルで記事が掲載されているが、それぞれに公開時期や掲載記事の種類が異なるなどの特徴を持っている。本稿では、これら3つの電子ジャーナルサイトでの日水誌を紹介したい。

#### J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム/独立行政法人科学技術振興機構）

J-STAGEとは、独立行政法人科学技術振興機構（JST）が構築した「科学技術情報発信・流通総合システム」である（図1）。その目的は、「日本の科学技術研究を国際的なレベルに保ち発展させていくため、優れた研究開発成果をいち早く世界に向けて発信すること」とされ、学協会が発行している学会誌や論文誌、予稿集の発行を電子化し、インターネット上で電子ジャーナルとして公開して、情報発信する機能を支援している。

J-STAGE 上の日水誌では、報文、短報、総説に加えて特集やシンポジウム記録など論文体裁の記事だけはあるが、速報性を高めて冊子体の刊行とほぼ同時に公開している（図2）。ここでは、非常に鮮明な PDF ファイルで記事を読むことができる。これは、日水誌の印刷を行っている小宮山印刷株式会社の編集システムから直接に PDF ファイルを作成してもらい、この J-STAGE にアップロードしているからである。わずかな経費を要す

るものの、鮮明な画質で配信できることは好ましい。

巻号一覧には、この公開が始められた日水誌の70巻（2004）以降の巻号が示されている（図3）。いずれかの号をクリックすると、その号の目次一覧が現れて、それぞれの記事の PDF をクリックすることで記事を読むことができる。なお、冊子体の刊行後1年間は、記事の PDF ファイルを閲覧するには、購読者番号とパスワードの入力による認証作業を必要とする。そして、刊行後1年を経過した記事については誰でも見る事ができる。なお、この購読者番号とパスワードはすでに会員にお知らせしてあるが、分からない場合には学会事務局

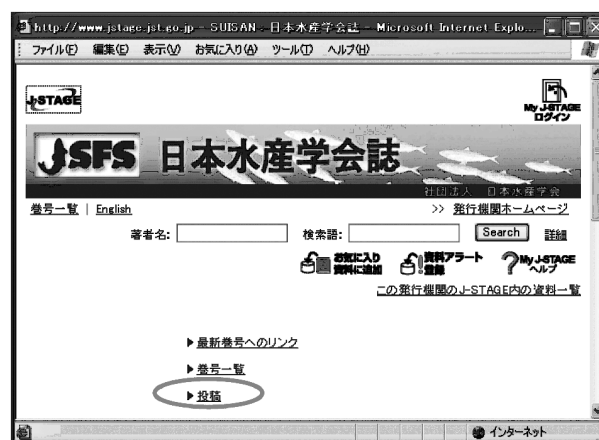


図2 J-STAGE における日本水産学会誌  
<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/suisan/-char/ja/>



図1 J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）  
<http://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja>

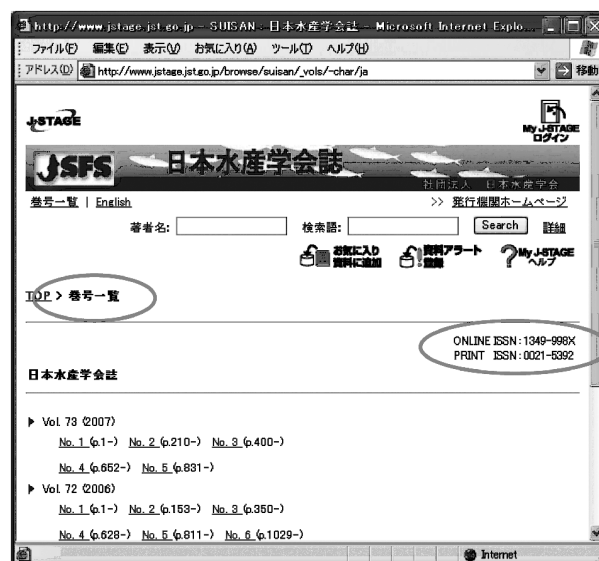


図3 J-STAGE における日本水産学会誌の巻号一覧

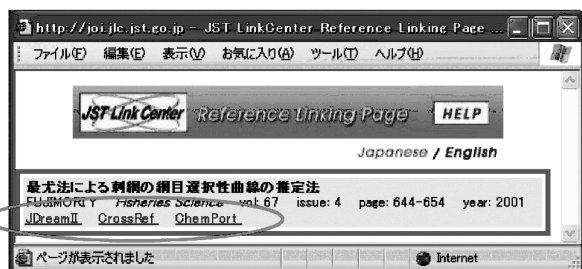


図4 JSTリンクセンターによるリンク先の提示例

(電話：03-3471-2165, E-mail: fishsci@d1.dion.ne.jp)にまでお問い合わせいただきたい。

このJ-STAGEの強みは、JSTリンクセンターを通して国内外のサイトとの文献リンクが提供されていることである。目次一覧から調べたい記事の「抄録」に進むと、その記事の書誌事項が提示される。そこでさらに、「引用文献」を選ぶと引用文献一覧が示される。ここではリンク先が提示されている文献については「JST Link Center」のボタンで示され、このボタンをクリックすると、図4のような引用文献のリンク先が示される。この図4の例では三つのリンク先が示され、このうちで「CrossRef」をクリックすると本会の英文誌Fisheries Scienceの記事が掲載されたBlackwell社のSynergyに到達できる。

J-STAGEが平成19年10月現在でリンクしている文献リンクは以下のとおりである。JDreamII(科学技術振興機構(JST)が提供している科学技術文献日本語検索サービス)、PubMed(米国国立医学図書館(NLM)が運営している無料の医学文献データベース)、CrossRef(Publishers International Linking Association(PILA)が運営する引用文献リンクのための出版者による国際ネットワーク)、ChemPort(米国化学会(ACS)とChemical Abstracts Service(CAS)が共同で提供する文献リンクサービス)、Google(Google社による検索エンジン)・Google Scholar(Google Scholarは学術文献に特化した検索エンジン)。

逆にJ-STAGEの記事もまたこれらの検索サイトの検索対象となり、その検索結果からJ-STAGEの記事にたどり着くことができる。特に、PubMedやCrossRefあるいはChemPortやGoogleを通じて日水誌の被引用回数が増えることが期待される。

雑誌、新聞、年鑑等のいわゆる逐次刊行物には、その流通、利用に際して識別を行うために、国際的なコード番号ISSN(International Standard Serial Number: 国際標準逐次刊行物番号)という固有の番号が与えられている。実は、このJ-STAGE上での日水誌は、冊子体の日水誌(PRINT ISSN: 0021-5392)とは別に、オンラインISSNコード(ONLINE ISSN: 1349-998X)を

持つ(図3)。つまり、このJ-STAGE上の電子ジャーナル日水誌は、冊子体とは別の雑誌と考えることもできる。J-STAGEで日水誌の記事を公開し始めた時点では、原則として冊子体と同じものを電子ジャーナルとして掲載することが条件とされていたように記憶している。しかし現在ではいくつかの学会で、学会誌を電子ジャーナルだけで公開しているところがある。例えば、日本細胞生物学会のCell Structure and Functionや日本内科学会のInternal Medicineがそうである。つまり、冊子体の本としては会員に配本されることなく、J-STAGE上での電子ジャーナル閲覧を前提とした学会誌の配信が行われている。この日本細胞生物学会において冊子体を廃止して電子ジャーナル化した経緯については、中野<sup>1)</sup>に詳しく書かれている。

なお、本会ではこの夏から、このJ-STAGEのシステムを用いて日水誌への投稿原稿の受け付けと審査を行えるようになった(図3)。詳しくは、本会ホームページのトップページ<http://www.soc.nii.ac.jp/jsfs/index.html>右欄にある日本水産学会誌WEB投稿の投稿方法をご覧ください。

またJ-STAGEではJournal@rchive(ジャーナルアーカイブ: [http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/top\\_ja.php](http://www.journalarchive.jst.go.jp/japanese/top_ja.php))として、日本の知的財産の保存するべく、紙媒体の雑誌を創刊号から電子アーカイブ化している。日水誌もこの対象誌に選定され、1932年の創刊号から電子化される予定で、現在スキャナーでの読み取りまで終え、年度内の公開に向けて準備が進められている。

#### CiNii(論文情報ナビゲータ/国立情報学研究所)

日水誌のすべての記事が、表紙から裏表紙までPDFファイルで閲覧できるのは、国立情報学研究所Niiの論文情報ナビゲータCiNiiである(図5)。このCiNiiでは、収録されている学協会発行の学術雑誌と大学等発行の研究紀要の両方を検索することができ、また検索された論文の引用文献情報(どのような論文を引用しているか、またどのような論文から引用されているか)をたどったり、本文を参照したりすることもできる。このCiNiiの中には、無料一般公開されている論文も豊富にあり、検索は特別な利用登録なしに誰でも利用できる。また、一部の有料公開の論文についても、「機関定額制(法人単位の利用登録)」やID(個人単位の利用登録)を取得することで閲覧やダウンロードが可能となる。

本会が刊行している雑誌として、日本水産学会誌が上げられている(図6)。

この日水誌の場合には、刊行後1年間は閲覧やダウンロードに一定の金額の支払いを求める定額許諾としているものの、本会会員は会員としてのCiNii利用登録を行うことで公開後1年以内の論文も無料で見ることが

できる。目次や要旨、会告・会報なども刊行1年以内でも見ることができ、刊行後1年が過ぎたものについては誰でも見ることができる。この会員としての CiNii 利用登録について詳しくは、本会ホームページの企画広報委員会の欄にある「国立情報学研究所 論文検索の新システム“CiNii”」<http://www.miyagi.kopas.co.jp/JFS/COM/jsfs6.html#03> をご覧いただき、本会事務局と連絡をとりながら所定の手続きを行っていただきたい。



図5 国立情報学研究所の CiNii 論文検索ナビゲータ  
<http://ci.nii.ac.jp/>

巻号ごとの目次は、図7のように表紙から裏表紙まで、論文スタイルの記事だけに限らず、すべての記事（話題や水産研究のフロントからなどの企画記事も）が示され、それぞれの記事の表題の後ろにある「CiNii」をクリックすれば、本文の PDF ファイルが開く。2007年10月現在で、日水誌65巻（1999）以降のすべての記事を PDF ファイルでみることができ、もちろんダウンロードも可能である。しかし、ここで閲覧可能な PDF ファイルは、J-STAGE のものと比べると写真などにやや鮮明さを欠くところがある。これは、J-STAGE では編集用の電子ファイルから PDF ファイルを作成したのに対して、CiNii では本会から国立情報学

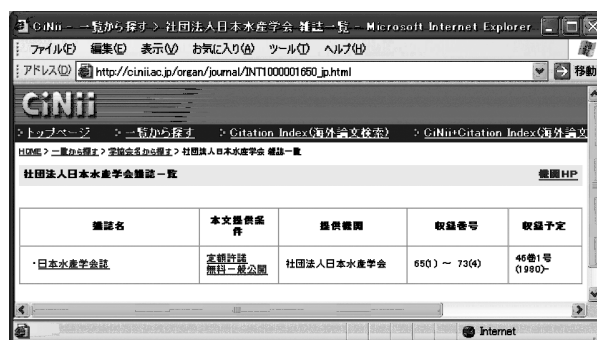


図6 CiNii 論文検索ナビゲータにおける日本水産学会誌の雑誌一覧



図7 CiNii 論文検索ナビゲータにおける日水誌の目次の例  
[http://ci.nii.ac.jp/vol\\_issue/nels/AN00193422\\_jp.html](http://ci.nii.ac.jp/vol_issue/nels/AN00193422_jp.html)

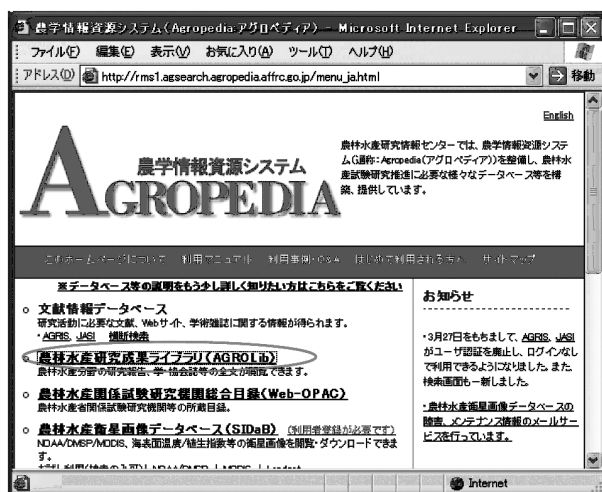


図8 AGROPEDIA (農学情報資源システム)  
www.affrc.go.jp/Agropedia

研究所に寄贈した冊子体がスキャナーで読み取られPDF化されているからである。このために画質がやや劣るのみならず、刊行、公開までにわずかに時間を必要とする。しかし、国立情報学研究所の予算でPDF化してもらえるメリットとともに、表紙からすべての記事がPDFファイルで掲載されている点で非常に便利だと言える。

### AGROPEDIA (農学情報資源システム/農林水産技術会議)

このAGROPEDIA (アグロペディア) は、農林水産試験研究に関する様々なデータベースを一同に集め、インターネットを通じて情報提供するシステムであり (図8)、全容は渡部<sup>2)</sup>がすでに紹介している。その中にある農林水産研究成果ライブラリー AGROLib では、農林水産省所管の試験研究機関、公立試験研究機関、大学が発行する研究報告や学会等の発行する学会誌のうちで、許諾が得られたものについて電子化し、PDFファイル形式で広く一般に公開されている。つまり、農林水産省農林水産技術会議事務局筑波事務所研究情報課からの掲載許諾の求めに対して、学会が応じる形でPDF化が行われ、CiNiiと同様に学会は特に経費を必要としない。

このAGROLibの「学・協会誌等」の中にある「日本水産学会誌」には、36巻9号～68巻5号 (1970.8～2002.9) の報文 (論文、総説、短報) が掲載されている (図9)。残念ながら、その他の記事は掲載されていないが、以前の論文を気軽にみることができると言う点では、役に立つのではないと思われる。

以上のように、3つの電子ジャーナルサイトでは、取り扱っている記事の種類やPDF化にそれぞれ異なった



図9 AGROPEDIAにおける日水誌の記事  
<http://rms1.agsearch.agropedia.affrc.go.jp/contents/JASI/society/sub/suisankaisi.html>

点がみられた。特に、J-STAGEは冊子体の日水誌の刊行とほぼ同時に公開する速報性を重視した位置づけであった。これに対して、CiNiiとAGROPEDIAはそれぞれ、日水誌の記事すべてを電子化している点や、かなり以前の論文から掲載している点で、日水誌のアーカイブと位置づけられる。いずれも冊子体が刊行されて1年以内は、会員だけが無料で閲覧できる。これは、会費を納めている会員の特典を確保するための措置である。しかし、本来すべての記事は、できるだけ広く、多くの人に見てもらうことが望ましいのではないだろうか。現在、本会を含む学協会は、科学研究の成果を社会に広く伝えることが求められている。今後は、さらに社会に対する公益性が求められる中で、刊行後すぐの無料公開も検討していくべきかもしれない。

### 文 献

- 1) 中野明彦. 学会誌の電子ジャーナル化から冊子体の廃止まで—日本細胞生物学会 Cell Structure and Function 誌の場合. 情報管理 2005; 48: 1-6. (<http://joi.jlc.jst.go.jp/JST.JSTAGE/johokanri/48.1>)
- 2) 渡部桂子. 農学情報資源システム (AGROPEDIA) の紹介. 日水誌 2007; 73: 144-147.